

研究課題名「胆道癌に対する肝切除術における自己血輸血と同種血輸血の使用比較」に関する情報公開

1. 研究の対象

2006年1月1日から2017年4月30日までに当院消化器外科1にて胆管切除を伴う肝切除をうけられた方。

2. 研究目的・方法・研究期間

肝切除術において輸血を行う際、同種血輸血のリスクを完全に回避することは困難である。我々は同種血輸血を減らすため、積極的に術前自己血貯血・輸血を行ってきたので、その有用性について、後方視的に検証する。

当科において、2006年から2017年4月までの間に、胆道癌に対し646例の肝切除術を施行し、自己血貯血は425例に実施した。うち、術中の無輸血症例は116例、自己血輸血のみ（同種血輸血なし）施行例は359例（Autologous群）、自己血輸血＋同種血輸血施行例は66例、同種血輸血のみ施行例は105例（Homologous群）であった。Autologous群とHomologous群の手術成績を比較する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、自己血貯血の有無、手術内容、同種血輸血の有無、術後経過、検体結果、等。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院 腫瘍外科学 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

研究担当者氏名：名古屋大学大学院 腫瘍外科学 尾上 俊介
(電話 052-744-2222、ファックス 052-744-2230)

研究責任者：名古屋大学大学院 腫瘍外科学消化器外科1 柳野 正人
(電話 052-744-2222、ファックス 052-744-2230)